

# Rapport Provisoire sur les Activités du projet d'un défi de burkinabé au baseball professionnel au Japon 2012～2015



2012-2013

2015年10月16日

## 1. Contexte du projet

ブルキナファソでは、1999年からイブライム氏により野球の普及活動が始められた。2004年に発足したブルキナファソ野球ソフトボール連盟に2008年から日本のJICA青年海外協力隊の野球隊員がこれまで3名派遣され選手やコーチに技術指導を行い支援している。

野球と出会った子ども達は、娯楽として野球を楽しむだけでなく、精神的な鍛錬を重ね「ライフスキル」を学び将来のブルキナファソを支える有望な人材として成長しており、野球の普及活動の意義・効果が現れ始めている。しかしながら、ブルキナファソで野球はまだ認知度が低く、連盟は、普及するためのグラウンド、用具、指導者、活動資金等の不足に直面している。

今後、連盟がこうした課題に対してボランティアと共に自立的な解決策を見出し、普及活動をさらに推進していくことが期待されている。

## 2. Objet et Résultat attendu du projet

「Projet de burkinabé au baseball professionnel au Japon」は、2008年から2010年までブルキナファソで活動した初代野球隊員が代表を務める「ブルキナファソ野球を応援する会」によって、ブルキナファソの野球選手がプロ野球選手になる夢を応援するために企画された。

このブルキナファソの選手が日本国内でプロ野球選手になるために国内で技能、自立、想像性を育み、その後独立リーグの入団テストを受けることによって、次の成果がもたらされた。そして、これらの成果が今後のブルキナファソ野球の発展における課題を克服するきっかけになることを願っている。

- ① ブルキナファソで野球ファンが増え、ブルキナファソの野球環境改善のための基盤が形成される
- ② 成功するための「プロセスビジョン」を学び、実践する。
  - 現地では学べないハイレベルな野球技術・練習方法・取り組み姿勢、等を学ぶ。
  - 野球が広く社会に浸透している日本野球の普及背景を学ぶ。

## 3. Activités réalisées

2012年11月に現地でプロジェクトに挑戦する選手の選抜試験を行った。42名の受験者の中から Sanfo Lassina 15歳が代表として選ばれた。2013年6月6日に来日し、北海道及び高知県で以下の活動を行った。7月30日にファイティングドッグスの入団テストを受け不合格、8月2日に帰国。

### Activité 1 : 日本語と生活文化の習得

初代野球隊員の家に宿泊し日本語及び日本の生活文化を学んだ。日本語で、挨拶や自己紹介、初歩的な日常会話、お手伝い、買い物ができるようになった。



### Activité 2 : 野球技術向上のための練習

野球技術向上のため地元の中学校や社会人野球チームの練習に参加し、プロ野球選手を目指す日本の野球選手と一緒に野球を楽しんだ。初めてのマシン打ちの練習は難しかった。



### Activité 3 : 富良野東中学校・みどり幼稚園へ短期留学

富良野東中学校とみどり幼稚園に短期留学し日本の教育を体験した。その他の学校にも訪問し、市民交流を行った。



### Activité 4 : プロ野球選手と交流

ラシィナの夢を応援する NPB の北海道日本ハムファイターズ球団の選手からブルキナファソ野球連盟への野球用具の贈呈式と試合観戦に招待された。セレモニーでは、ラシィナも日本語で挨拶とお礼を述べた。「いつかブルキナファソの選手と日本の選手がプロの国際試合で戦いましょう。」という鶴岡選手のメッセージに感動していた。プロ野球選手の技術、野球ファンの熱狂的な応援を体験し、プロ野球選手になりたいという夢への想いも励まされた。



### Activité 5 : 表敬訪問

彼の滞在のために沢山の市民の方にご協力いただいた富良野市の市長、JICA 札幌へ表敬訪問を行った。

## Activité 6: 日本人家族宅でホームステイ

高知県では、フランス語を話せない日本人家族宅に滞在した。ラシィナの日本語は好評で、ラシィナの夢を応援してくださる地元のファンが増えた。



## Activité 7: ファイティングドッグスの練習参加

練習生として勝負の1ヶ月が始まった。初めて参加するプロの高いレベルの練習で、自分の課題を改善しようと毎日一生懸命努力していた。

体力測定の結果によると、彼はプロ選手なみの脚力はあるものの、上半身の筋力は高校生並であるため鍛える必要がある。守備は良いがバッティングと走塁は基本技術をしっかり学ぶ必要があると評価された。



## Activité 8: 日本語の習得

地元で英語を教えている塾の先生に師事し、引き続き日本語の勉強をした。



## Activité 9: 高知南中学校訪問

中学全国野球大会で日本一になった高知南中学校の練習を見学。100名以上の部員の中から短い練習時間で結果を残した人だけが試合に出られる競争の厳しさを知り、自主練習にも気合いが入る。



## Activité 10: 地域の社会貢献活動に参加

ファイティングドッグスが行っている地域のための社会貢献活動にも参加。日本のプロ野球チームは、地域のスポンサーやファンの方に支えられ存続している。ブルキナファソでも野球普及基盤形成のためにこうした活動を応用する余地がある。



### **Activité 11: 表敬訪問**

ファイティングドッグスのホームタウン越智町の町長を表敬訪問した。「野球の練習を頑張るとともに、越智の町を楽しんでいてください」と激励していただいた。



### **Evaluation provisoire**

プロジェクトの評価は、入団テストの結果を診て行う。プロジェクトを始めて、現時点で既に次のような成果が現れ始めている。

#### 1) 代表選手の意識・技術力向上

来日して1ヶ月半の間にも、ラシィナの野球技術は日本の野球環境でのプログラムにより向上している。帰国後、習得した技術を模範として示せる普及員としての活躍が期待される。

#### 2) プロの指導の現地普及

また、プロジェクトは、随伴する野球隊員OBがプロの指導を直接学ぶ良い機会にもなり、現地の隊員へ指導内容を伝達することにより、現地でもプロを目指すための基本技術の普及を目指すことができる。

#### 3) 日本側協力者の関心の高まり

プロジェクト紹介のTV番組や新聞記事等で、真摯に野球に取り組み挑戦しているラシィナの姿に共感し、彼を応援したいという日本人ファンが増えている。こうした関心の高まりにより、特に財政面、プログラム面において今後の支援協力活動の展開可能性が広がる。

## Rapport Provisoire sur les Activités du projet d'un défi de burkinabé au baseball professionnel au Japon 2012～2015



2013-2014

2015年10月16日

### Activités réalisées

2013年プロチャレンジプロジェクト（プロプロ）終了後、ラシィナは帰国し、練習を継続。そのほか選手指導への活動を行なった。各地での説明会および彼のチームメイトへの影響は大きなものだった。

2013年11月 第2弾プロジェクトへの選抜試験を行ない、30数名から4名を選抜した。2013年12月高知ファイティングドッグスより、ラシィナの成長と野球への取り組みが評価され、来季より正式に練習生として受入れていただくことになった。

2014年2月 再来日 練習生としてスタートする。

2014年6月 第2弾プロジェクト始動、4名来日した。カファンドアミール（16歳） サノーアミール（17歳） サノーファリード（16歳） ザブレジニオ（18歳）

6月にファイティングドッグスのトライアウトを受験しファリードのみ練習生として参加。他3名は北海道を拠点に以下の活動を行なった。9月末4名は帰国。

### Activité 1 : 日本語と生活文化の習得

富良野市内のボランティアの方に無償で宿泊させていただき、日本語及び日本の生活文化を学んだ。日本語で、挨拶や自己紹介、初歩的な日常会話、お手伝い、買い物ができるようになった。



### Activité 2 : 野球技術向上のための練習

野球技術向上のためゴールを定め、そのプロセスを会得するために地元の中学校、大学生、社会人野球チームの練習に参加し、プロ野球選手を目指す日本の野球選手と一緒に野

## L'ASSOCIATION D'AMIS DU BASEBALL DE BURKINA FASO

球を楽しんだ。本年も初めてのマシン打ちの練習は難しかった。

### Activité 3 : 富良野、札幌、滝川などで短期留学

富良野小、札幌東高校、清田高校、滝川西高校での短期留学し日本の教育を体験した。その他の学校にも訪問し、市民交流を行い、富良野で初めてアフリカンフェスを行なった。



### Activité 4 : プロ野球選手と交流

昨年より NPB の北海道日本ハムファイターズ球団の選手からブルキナファソ野球連盟への野球用具の贈呈式と試合観戦に招待された。プロ野球選手の技術、野球ファンの熱狂的な応援を体験し、プロ野球選手になりたいという夢への想いがさらに具現化された。また旭川スタルヒン球場ではジニオによる始球式も行なわれた。



### **Evaluation provisoire**

#### 1) プロジェクトの成果

昨年より少しずつ表面化していたが、日本の育成方針に疑問を感じるようになった。これはスポーツに限らず実社会においてどの分野にも当てはまると感じる。実際に能力のないものに対しての指導方法は将来性を感じない。選手への目的レベルを下げるように感じた。

その中で周囲の声に戸惑わず、北海道に残った3名は自らの「ゴール」を明確にし、そのプロセスを構築することに特化していった結果、帰国前には自ら行動し、課題を把握、考察し、改善のために行動できるようになった。ある意味では環境が整えられていないからこそ、自らが判断し選択する習慣を得た。

例えば、来日当時50m走が7秒台だったのが6秒を切るほどになった。

これも効率的な走り方、走ることへの知識の習得の成果だったと考える。

また日本語に関してや、物事の感じ方、考え方、

本プロジェクトによって、これまで受け身であった学びが、自らの意志によって学ぶことによる成長は飛躍的なものになると感じた。

これらの結果によって、本プロジェクトの有効性が証明されたと考えられる。

次年度も引き続き実施していく予定である。

## Rapport Provisoire sur les Activités du projet d'un défi de burkinabé au baseball professionnel au Japon 2012～2015



2014-2015

2015年10月16日

### Activités réalisées

サンホ・ラシィナは2014年2月より高知FDで練習生として2年目になり、同年2015年8月 支配下登録選手となる。

2015年7月より 第3弾プロジェクト始動、3名来日した。カファンドイス（15歳） ボンクンゴ カデル（17歳） ジダ エジニ（30歳）  
洞爺湖町での初めてとなる自治体による受け入れをしていただくこととなった。  
北海道を拠点に以下の活動を行なった。9月に3名は帰国。

#### Activité 1 : 日本語と生活文化の習得

これまで同様富良野市内にて日本語及び日本の生活文化を学んだ。日本語で、挨拶や自己紹介、初歩的な日常会話、お手伝い、買い物それぞれ一人できるようになった。



#### Activité 2 : 野球技術向上のための練習

野球技術向上のためゴールを定め、そのプロセスを会得するために地元の中学校、大学生、社会人野球チームの練習に参加し、プロ野球選手を目指す日本の野球選手と一緒に野球を楽しんだ。本年は初めてのマシン打ちの練習に対してカファンドイスはすぐに対応した。



#### Activité 3 : 赤平、洞爺湖での短期滞在



## L'ASSOCIATION D'AMIS DU BASEBALL DE BURKINA FASO

本年も様々な交流を行ったが初めて自治体での受け入れをしていただいた。特に洞爺湖町では町の施設を無償でお借りして滞在やイベントでの交流をさせていただいた。

### Activité 4 : プロ野球選手と交流

本年も NPB の北海道日本ハムファイターズ球団の選手からブルキナファソ野球連盟への野球用具の贈呈式と試合観戦に招待された。プロ野球選手の技術、野球ファンの熱狂的な応援を体験し、プロ野球選手になりたいという夢への想いがさらに具現化された。また初めてのコラボグッズを作成し公式戦などで販売させていただいた。



### Activité 5 : サンホラシィナ支配下登録昇格

8月25日にラストチャンスとなるテストに合格し、ブルキナファソ初のプロ野球選手が誕生した。



### Activité 6 : ジニオ BCリーグ新潟でテスト合格

昨年もトライアウトを受験したジニオが再挑戦し、BCリーグ 群馬、新潟と受験し見事新潟の球団に合格。登録選手として来季から参加予定



### **Evaluation provisoire**

#### プロジェクトの成果

本年もプロジェクトに参加した3名は日本語、野球の技術、文化理解を深め帰国した。また本年では交流を中心に行う結果となり、富良野で行ったアフリカンフェスや旭川ではアフリカンクッキングなどこれまで関心がなかった層に対しての交流をすることができ多くの支持者を増やすことになった。これらの成果により来季西アフリカ選抜プロジェクトへの協力体制ができた。

そして、これまで挑戦していたラシィナの支配下登録昇格、ジニオのBCリーグ参加など目に見える成長が次々に出てきている。

ほかにもブルキナファソで挑戦を継続している選手たちが次のプロジェクトのために準備している。大きな飛躍を目指すべく、また2020年の五輪へのアクションとして2016年西アフリカ選抜プロジェクトを実施する計画を進めている。

多くのアフリカンの可能性を引き出すプロジェクトになることを強く願う。

*A continué en 2016*

